

しいの実ぐみ

新年度を迎え、4名でスタートしたしいの実ぐみです。初めての保育園生活。いきなり矢知らない場所、矢知らない人と生活することにより、涙、涙の子どもたち。不安でいっぱいだったでしょうね。そして、保護者の方も「離れたい」とカレ、(ぞい)しがみつくと子どもたちを見て、胸が苦しかったことと覚えています。ですが、段々と保育者の顔、声を覚え、見守られている安心感を感じ、周りの環境に目を向けて遊び、笑顔が沢山見られるようになってきましたよ😊

保護者の方や保育者など、身近な大人との間に形成される「愛着」とは、絆やつながりを意味し、愛着対象となる大人は、子どもにとっての基地となり、そこで子どもは気持ちをコントロールするか、円滑な大人関係を築くための社会性の基盤を身につけます。この基地への信頼は、子どもの探索行動を支えます。子どもは愛されている、見守られている安心感のもと、探索行動を行うことができます。園では、子どもたちが愛されている安心感を感じ、探索行動をたくさん経験できるようにしていきたいと思っています。興味、関心が生まれ、子どもたちが自主的、主体的に生活を送れるように、毎日、笑顔で接していきたいと思っています。

おねがい

- ケガにつまがらるので、爪はこまめに短く切ってください。A角がとがらないように。
- 持ち物には全て名前を書いて下さい。

この1年間、保護者の方と一緒に子どもたちの成長を喜び合い、もしも何かしんどいことがあれば、一緒に考えていきたいと思っています。たくさんお話しできたらうれしいなと思っていますので、1年間どうぞよろしくお願いいたします☆

しいの実・たんぽぽ・みずぐみ

ワラスだより 2021.4.30

2021年度が始まり、一ヶ月が過ぎようとしています。今年度の乳児ワラスは、しいの実ぐみ 4名 たんぽぽぐみ 4名の新しいお友だちを迎えました。新入園児も在園児も慣れない環境に涙することもありますが、笑顔で過ごす日を待ちわびています。コロナ禍で活動を制限される中ですが、みんなが元気に笑顔で過ごす一年間であるよう願っています。一年間、よろしくお願ひします。

たんぽぽぐみ

おさぽにいたよ
今年度のたんぽぽぐみは、8名でのスタートとなりました。毎日のように散歩に出かけました。在園児の子どもたちは、順に保育者と手をつないで歩くことや、探索を楽しみました。今は地面に落ちていれる小石や落ち葉を拾うことが、楽しいようで、拾ったものは子どもたちの宝物になっています。子どもたちは歩きながらでも、小石も拾って持っていますので、よく見ています。気づけば、小さな手には、沢山の小石や葉、はか握られていることもよくあります。また、この時期恒例の梅の花ひらも園にして見ると、ジューと見入り、自分でもしてみようしたり、もつこはかりに花ひらも採って持ってくる姿もありました。新入園児の子どもたちは、保護者の方から離れる時に泣いていますが、一旦、戸外に出れば、涙も止まり、お散歩カーに乗ってあたりを見渡して、日が経ち、少しづつ園での生活や保育者にも慣れてくると、指さしをして、気持ちを伝えようとする姿もありました。各々地に行けば、お散歩カーからおりて探索です。在園児のあとを追うように歩くことを楽しむ子どもも、広い場所でのひたひたと歩けることを嬉しそうにしてる姿もありました。体調もくおして、全員が揃うことはなかったですが、今後、みんなが楽しい時間を共有したいと思っています。

薄着習慣について

保育園では季節問わず、室内では(体調は考慮します)半袖、半ズボンで過ごしています。皮つを金鎖し、外気温との変化に対応できるような身体もつり、自律神経を強化します。また、大人からすれば、肌寒かなと思っても、子どもは糸色えが活動し、新陳代謝も盛んなため衣服は大人よりも一枚少ないのが目安です。これからは暑い季節に向かっていますが、病気に負けない身体をつくるためにも、今から薄着に慣れていきたいと思います。朝の受け入れは、半袖半ズボンでお願ひします。

みずぐみ



～子どもたちの姿～

4月になり、新しい環境や保育者に慣れず、最初のころはなかなか保育室に入ることが出来なかったり、泣いていた子どもたち。今では少しずつ慣れ、元気に「おはよう」と挨拶をして自分から保育室に入る姿も見られるようになってきました。またたんぽぽぐみの時からずっと一緒にいる人形を大切に持っていて、ままごと遊びの時や昼寝の時に一緒に寝ているなど、とても大切にしています。4月のうちは、環境や生活リズムに慣れるまで園庭あそびや室内あそびを中心にしていましたが、少しずつ近所のだるま寺や園の周辺にも散歩に行き始めました。車や自転車、バイクに充分気をつけて、しっかり手を繋ぎ春の暖かさを身に感じながらだるま寺では、だるまさんに元気に挨拶したり、段差からジャンプをし、楽しいようで何度もくり返し遊び、身体を動かしています。周りの友だちへの興味も出ていて、自分の世界ももっと広がってきている子どもたちですが、生活の中ではどうしても自分の思い通りにならないことや同じおもちゃを取りあい、怒り、泣いてしまう姿もよく見られます。しかし、それも大切な経験の一つだと思っています。保育者がしっかりお互いの話を聞き、受けとめたり、提案をしてみることで安心し、少しずつ自分の思いを言葉で伝えようしたり、友だちとの関わりももっと増やして欲しいと思います。最後になりましたが、今年1年間よろしくお願いいたします!!

～イヤイヤ期～

2歳になると「イヤイヤ期」が始まる子どももいて、保護者の方もうまくいかないと思われることがあるかもしれません。その一方で言葉が増えたり、運動能力が発達し、成長を感じる時期でもあります。イヤイヤは自覚性、自立心の目見え、自分でやってみたいけどうまくいかない…。そんな気持ちをうまく表現できないために感情を抑えられず、出てくる言葉が「イヤ」という言葉や癇癢なのです。でもここで一方的に「ダメ」と叱ったり、子どもの言いなりになってはいけません。なぜなら叱っては子どもの考えを全否定してしまうし、子どもと大人が向きあう機会をうばってしまうからです。子どものやりたい気持ちを理解して受けとめ、言語化してあげることが大切です。「～したかったんかあ」「そうだね…」と共感を示すだけでも子どもが安心感を得ることが出来、次に繋がっていきます。もし癇癢を起こしてしまったら抱きしめたり、気持ちが落ちつくまで待つから対処するようにします。時には気が済むまで4チャレンジさせてあげるのもいいかもしれませんね。

